

日本自動車部品工業会における地球温暖化対策の取組 ～カーボンニュートラル行動計画2021年度実績報告～

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項と対応
1. 自動車部品工業会の概要
2. 「カーボンニュートラル行動計画」概要
3. 2021年度の実績
4. 低炭素/脱炭素製品・サービス等による
他部門での貢献
5. 海外での削減貢献
6. 革新的な技術開発・導入
7. その他の取組

2023年3月17日
一般社団法人 日本自動車部品工業会

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項と対応

2/32

分 類	●ご指摘・○ご意見	対 応	参照ページ
目標設定	○2050年のカーボンニュートラルの流れの中で、進捗状況、特に2030年目標について、今後上方修正をしていく考えがあるか。	・2030年度目標（改定版）を記載した。（「第9次環境自主行動計画 改定版」2022年4月公表） “2013年度比46%以上の削減を目指す”	p.4、7
評価分析	○カバー率向上のための取組み内容について記載してほしい。	・カバー率向上のための実施項目を追記した。 ・会員各社へのフォローアップ強化や省エネ事例集の展開、カーボンニュートラル関連の勉強会・見学会の開催等、カーボンニュートラルや省エネに関心をもって頂く活動を継続するとともに、報告様式の簡素化、入力方法の解説動画作成等に取り組みカバー率向上に努めた。	p.9 ワード p.5
	○中小企業でのIoT活用推進の取組みについて知りたい。	・IoT活用推進の取組みについて記載した。（空調機、コンプレッサー運用の改善）	p.12

1. 自動車部品工業会の概要

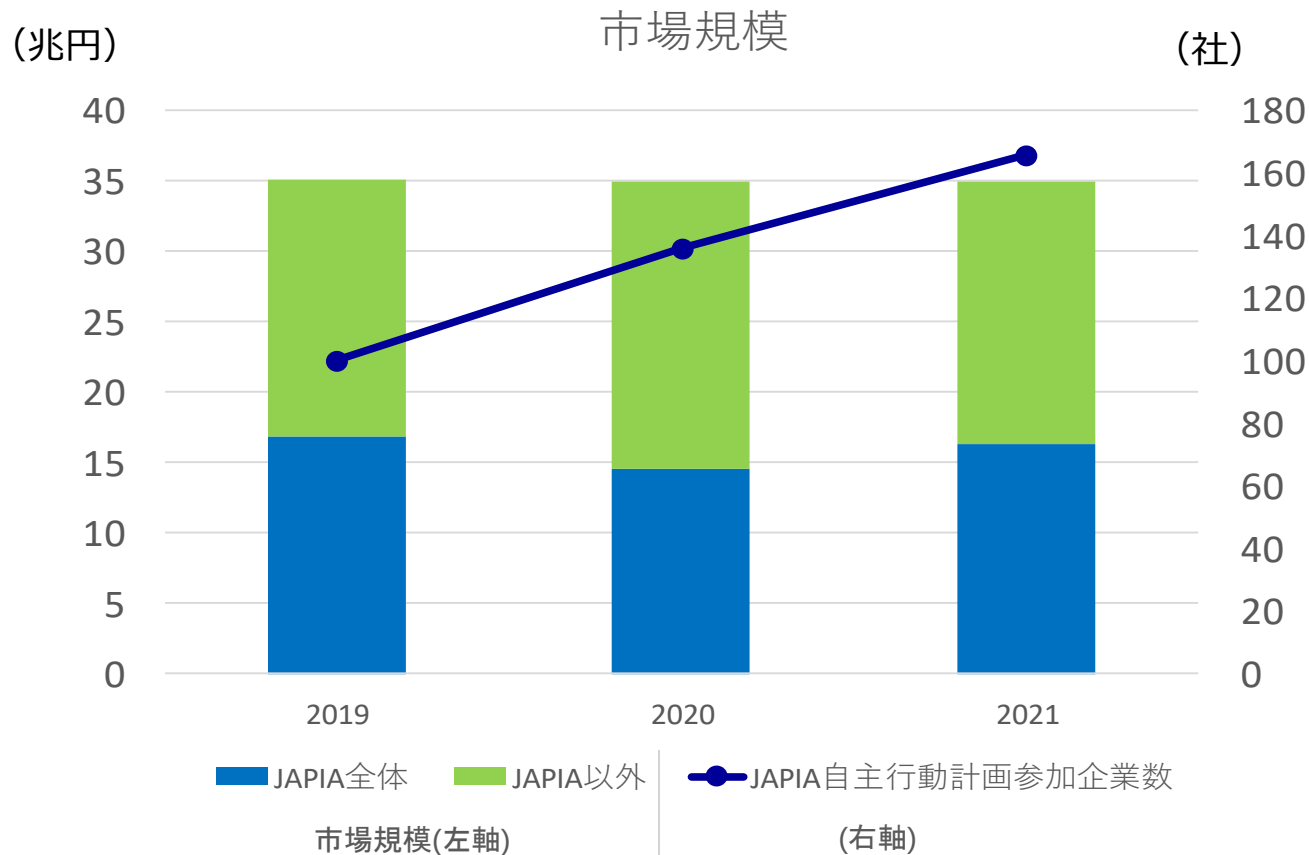
3/32

業界の主な事業：自動車関係部品の製造

エンジン搭載部品、電気電装部品、駆動・伝導部品、
内外装部品 等

※ 市場規模：工業統計調査 (2020年確報)

※ 参加企業数：2022年10月現在



2. 「カーボンニュートラル行動計画」概要

4/32

目標項目	基準年	目標年	目標値
CO2排出量	2013年度	2030年度	2013年度比 46%以上の 削減を目指す

対象：国内事業場のエネルギー起源排出量（Scope1、2）
（国のエネルギー政策等の変更があった場合には見直す。）

経団連の主旨に賛同し行動計画に基づき削減活動を進めている

前提条件

- «削減範囲» 生産工程＋事務所＋研究施設等、省エネ法範囲と同様の範囲
- «電力排出係数» 変動係数（調整後排出係数）
- «生産» 自動車生産台数と次世代車比率を勘案し、出荷金額を部工会で想定
- ◇第6次エネルギー基本計画では2030年電源構成が非化石59%程度に計画。
- ◇業界として最大限の削減努力を図るため、省エネ努力と再生可能エネルギーの積極活用を行う。

目標設定の考え方

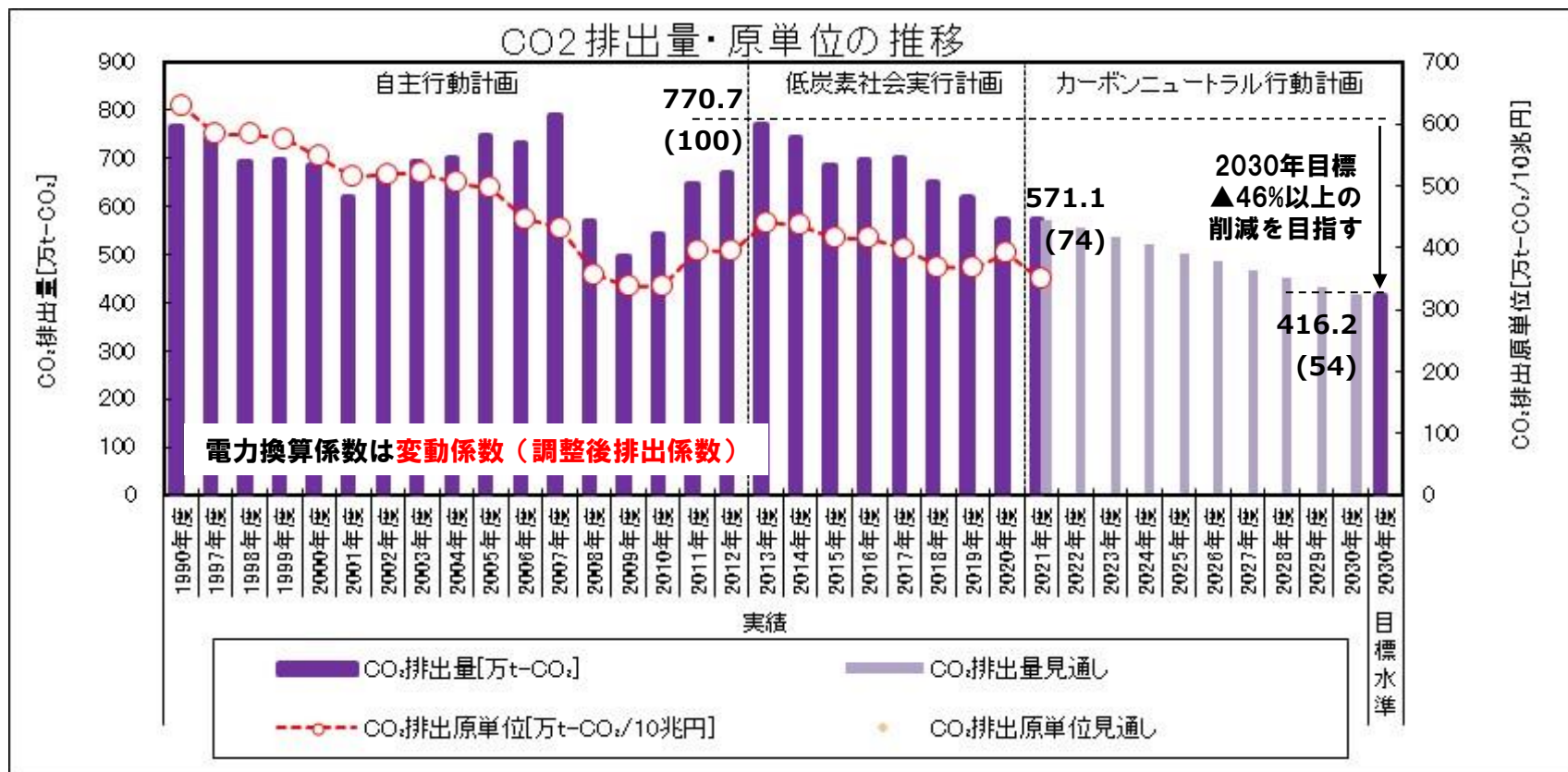
地球温暖化を防止するためには、CO₂ 排出量を削減することが重要であるため排出量とした。

3. 2021年度の取組実績

6/32

第9次環境自主行動計画 改定版（2022年4月）で目標を定め削減活動を推進

（1）2021年度実績（フェーズⅠ）



2021年度は生産活動量が回復したが、省エネ努力や燃料転換の効果により対前年度比で横ばいとなった。
出荷額あたりの排出量原単位は、10.6%減少した。

第9次「環境自主行動計画」

I. 第8次計画に対する第9次計画の主な改正内容

(1) CO2排出量の 2030 年度目標は原単位から総排出量に切替える。

(電力換算係数は、変動係数とする。)

(2) 産業廃棄物の最終処分量は 2025 年度目標を設定し、新たに廃プラスチックの取り組みについて言及する。 他

II. 数値目標

CO2排出量

2030年度のCO2排出量 2013 年度比で 46%以上の削減を目指す。

対象：国内事業場のエネルギー起源排出量 (Scope1、2)

(国のエネルギー政策等の変更があった場合には見直す。)

1. 地球温暖化対策

(1)製品の開発設計段階におけるCO2排出量削減の取り組み

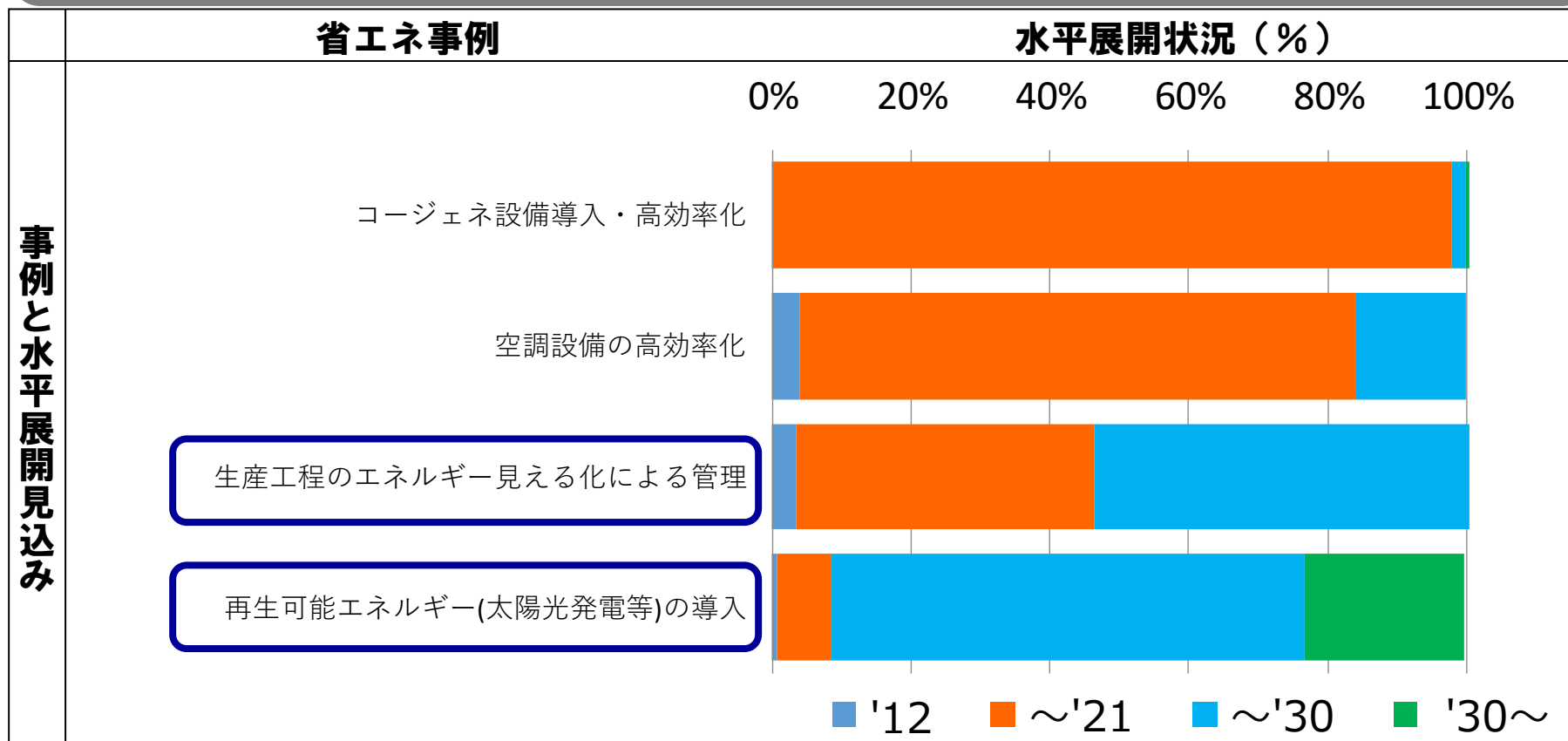
- ・自動車メーカーが取り組んでいる燃費向上、環境に配慮した次世代自動車の市場投入計画等に、部品メーカーの立場から積極的に参加、協力する
- ・LCA評価手法の業界標準化に取り組み、部品の軽量化、性能・効率の向上、新システム、新素材の開発等を推進する

(2)製品の生産段階におけるCO2排出量削減の取り組み

- ・会員会社並びに産業界から収集した各種CO2低減対策情報や省エネ技術を共有化し、CO2排出量削減対策を推進する
- ・来る低炭素社会を見据えて、再生可能エネルギーの活用を積極的に検討する

社会変化を取り込んだ第9次自主行動計画を策定。引き続き検討を進める

部工会のCO2排出量の大半を占める会社の水平展開の状況調査
⇒再生可能エネルギー導入やIoT活用については、'30年に向けて計画する会社が増加。今後も事例の収集と展開を継続。

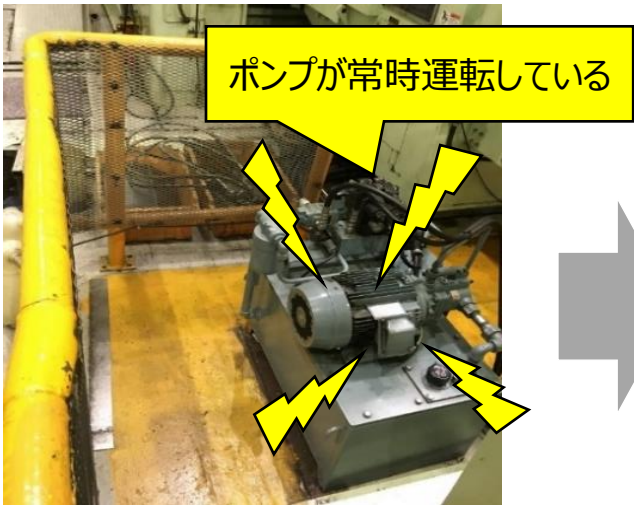


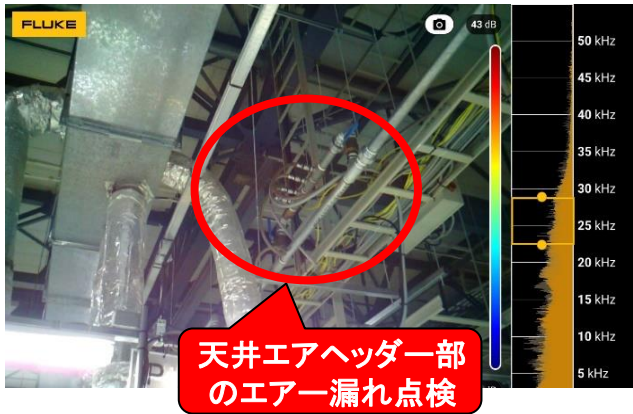
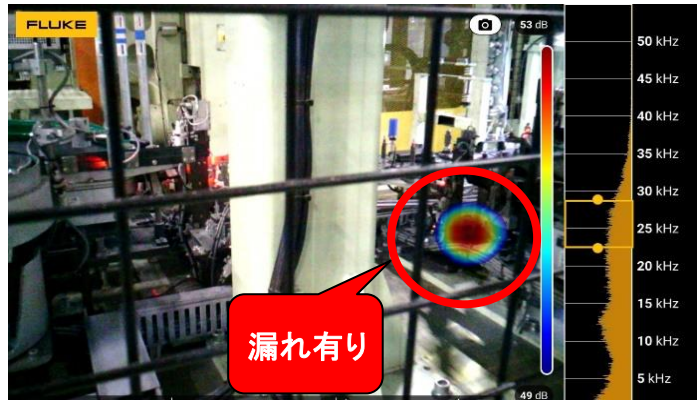
◆ 2030年に向け着実に対策の水平展開の実施
~'21年：照明LED化、空調設備の高効率化等
~'30年：再生可能エネルギー導入、IoT活用等

CO2削減テーマ総量（見込み）

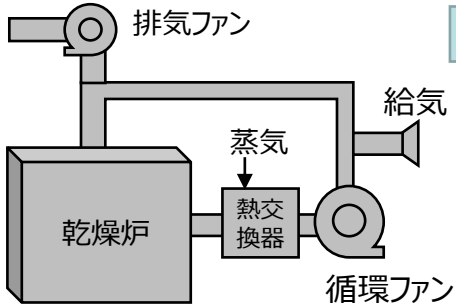
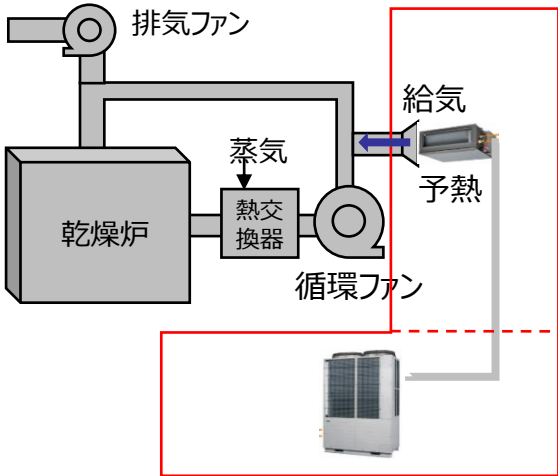
~'21： 28万 t-CO2 着実に
~'30： 42万 t-CO2 毎年増加

項 目	内 容	時 期
省エネ事例展開	102事例	2023年3月公開予定
カーボンニュートラルアクションリスト	全体で約130ページ	2023年3月公開予定
CN講演会、セミナー勉強会	年間 約13回 開催 年間 約3,600人参加	2022年1月～12月
報告様式見直し (簡素化)	2021年報告分	2022年5月～6月
入力方法の解説動画 作成		2022年5月～6月

テーマ名	油圧ユニットの間欠運転	
概要	油圧ポンプの低負荷時にアキュムレータで圧力保持し、油圧ポンプを停止させる	
取組み内容	レベラー設備本体の使用率は低いがプレス機側のMBクランプにも分岐供給しているので常時運転の為、省エネ施策を検討。 (ポンプ容量、3.7 k w h)  ポンプが常時運転している	常時運転しているMBクランプ側にアキュムレータユニットを追加し、ポンプを間欠運転する事でポンプの省エネ運転が出来た。 (ポンプ停止中はアキュムレーターにて圧力保持する)  アキュムレーター装置を設置 油圧ポンプの間欠化 ・エネ種類：電気 ・CO2削減効果： 5.7 t -CO2/年 ・効果金額： 252千円/年

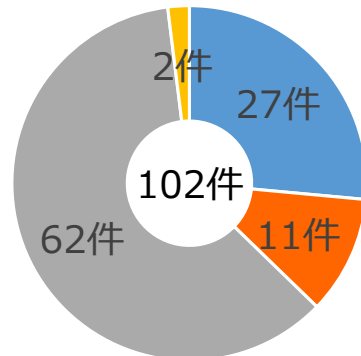
テーマ名	エアー漏れ検出器の活用による工数とロスの低減
概要	従来の耳と手に頼ったエアー漏れ調査と復元作業に、エアー漏れを自動検出するカメラモニターを使うことで、調査作業の効率化及び微量・高所など見逃し分も含めた漏れ無き改善を行う
取組み内容	【高所の点検】  天井エアーヘッダー部のエアー漏れ点検 【嬉しさ①】 高所の配管のエアー漏れ調査時に脚立に乗らなくても床面から高所を測定出来て安全に早く、漏れ部位を特定出来る 【間接的な点検】  漏れ有り 【嬉しさ②】 今まではエアー漏れ調査はライン停止をして、実施していたが、離れて可視化出来る事により設備稼働中でも点検出来る様になった ・エネ種類： エアー ・CO2削減効果： 27 t -CO2/年 ・効果金額： 961千円/年

テーマ名	F-IOT活用（エネルギー見える化等）
概要	空調機、空気圧縮機の電力使用量やエアー流量を測定することによりムダを発見し、運用方法の改善につなげた。
取組み内容	a.空調機 電力計 (KM-N1) 電力計 (KM-N1) 電力計 (KM-N1) 収集データ (EQ100-E) PC監視 工場全体のグラフ表示 1日の空調電力推移 改善前（'21.7.30） (kWh) 平均: 38.9kWh 改善後（'21.8.27） (kWh) 平均: 25.9kWh 改善効果がすぐに出るため、製造の改善意欲向上に繋がった b.空気圧縮機 累計データの圧力 (mpa) 0.55 0.53 0.51 余剰圧力 0.518MPa 圧力のムダを発見。コンプレッサーの運転台数を減らし余剰圧力を削減。 (mpa) 0.55 0.53 0.51 余剰圧力が無くなった
対策効果	電気使用量低減＜年間効果＞ ・電力量 2,515 kWh ・CO2 5t-CO2/年 37kwコンプレッサー1台の低減＜年間効果＞ ・電力量 142,000 kwh ・CO2 6.1 t -CO2/年 ・費用 199,000円

テーマ名	塗装乾燥給気ヒートポンプ予熱による省エネ
概要	塗装乾燥給気を熱風発生ヒートポンプで予熱することにより、エネルギーロスの大きい蒸気加熱を減らして省エネを図った。
取組み内容	改善前： 蒸気温度調節  CO2排出量： 65t-CO2/年 改善後： ヒートポンプ予熱 + 蒸気温度調節  高効率 ヒートポンプ 熱風装置 CO2排出量： 38t-CO2/年 (▲41%) ・エネ種類：蒸気 ・CO2削減効果： 27 t -CO2/年

温暖化防止分科会で省エネ対策事例を会員企業に展開

省エネ対策事例（対策別内訳）



- 省エネ設備の導入
- 熱回収など
- 日常改善・運転管理など
- その他

2022年度 省エネ対策事例集リスト

No.	テーマ名	大分類	F-IOT(見える化等)	機器・設備	部工会事例 7区分	主要工程11区分	管理標準項目11区分	中日本区分	対策費用 (千円等)	対象台数 (台、一式等)	回収年数 (年)
1	LED照明の電力削減	01：生産	02：その他	02：加熱装置	02：設備運転管理	01：加熱装置	99：その他	02：設備運転管理	0	1	1
2	高圧・中圧・低圧電力変圧器による電力損失削減	01：生産	02：その他	02：設備運転管理	02：設備運転管理	01：加熱装置	99：その他	02：設備運転管理	240	12台	0
3	除湿機・加湿器利用（リユース）による省エネ	05：その他	02：その他	02：加熱装置	06：熱源・燃料変更・熱回収	01：加熱装置	30：高熱回収利用	02：設備運転管理	内作工事	2台	0
4	除湿機・加湿器利用のエネルギー削減	01：生産	02：その他	22：その他（上記以外）	02：設備運転管理	07：照明	99：その他	02：設備運転管理	0千円	27台	0年
5	連続運転が可能な熱回収装置による省エネ	01：生産	02：その他	01：炉	06：熱源・燃料変更・熱回収	01：加熱装置	51：熱回収装置の設置・改良	02：設備運転管理	8,800千円	1	5.2年
6	スチーム・ボイラ・ファン・モーターへの更新・修理・調整	01：生産	02：その他	17：換気設備	05：省エネ設備導入（省エネ・照明）	01：加熱装置	99：その他	02：設備運転管理	1330	1台	1.6
7	ボイラ・コンデンサ・システムの変更	01：生産	02：その他	12：換気設備（空調機・ファン）	04：省エネ設備導入（省エネ・照明）	01：加熱装置	21：加熱設備など	02：設備運転管理	8710	1台	4.2
8	350℃以上のファン・モーター・換気装置	01：生産	02：その他	07：ボイラ	01：日常管理	01：加熱装置	61：電気化による省エネ	02：設備運転管理	85万円	1台	3.4年
9	VRV空調システム・空調機による省エネ	01：生産	02：その他	01：炉	03：生産工程・工法	01：加熱装置	21：加熱設備など	選択して欲しい▼	0	1台	0
10	ファン・モーター・換気装置の省エネ化による省エネ	01：生産	02：その他	10：空気圧縮機	02：設備運転管理	01：加熱装置	99：その他	02：設備運転管理	0	3式	0
11	エネルギー・LED照明・省エネ設備の導入	01：生産	02：その他	22：その他（上記以外）	01：日常管理	01：加熱装置	99：その他	02：設備運転管理	-	事業場内の 生産設備全般	-
12	生産工程・空調機・換気装置の省エネ化	01：生産	02：その他	10：空気圧縮機	02：設備運転管理	01：加熱装置	99：その他	02：設備運転管理	約10,000千円	17 [5台]	約0.6 [年]
13	スチーム・ボイラ・ファン・モーターによる省エネ	01：生産	02：その他	10：空気圧縮機	05：省エネ設備導入（省エネ・照明）	01：加熱装置	選択して欲しい▼	02：設備運転管理	1,900千円	2台	4.9年
14	照明のLED化による省エネ	02：建物	02：その他	19：照明	04：省エネ設備導入（省エネ・照明）	01：加熱装置	選択して欲しい▼	02：設備運転管理	1,760千円	一式	1.4年
15	空調機・換気装置の省エネ化	01：生産	02：その他	04：換気設備（空調機・ファン）	03：生産工程・工法	01：加熱装置	選択して欲しい▼	02：設備運転管理	25,000千円	1台	0
16	電力損失の削減・省エネ化による省エネ	01：生産	02：その他	13：空調機・外気機	01：日常管理	01：加熱装置	22：空調設備	02：設備運転管理	800千円	-	-

《優良事例の集約》

- ・ 会員企業の実施事例を毎年収集 **< 102件 >**
- ⇒ 温暖化防止分科会で水平展開可能・低コスト事例を選定
- 検索のしやすさへの配慮：工程・分野別・エネルギー種類・投資額等での並べ替え可能

《着実な展開》

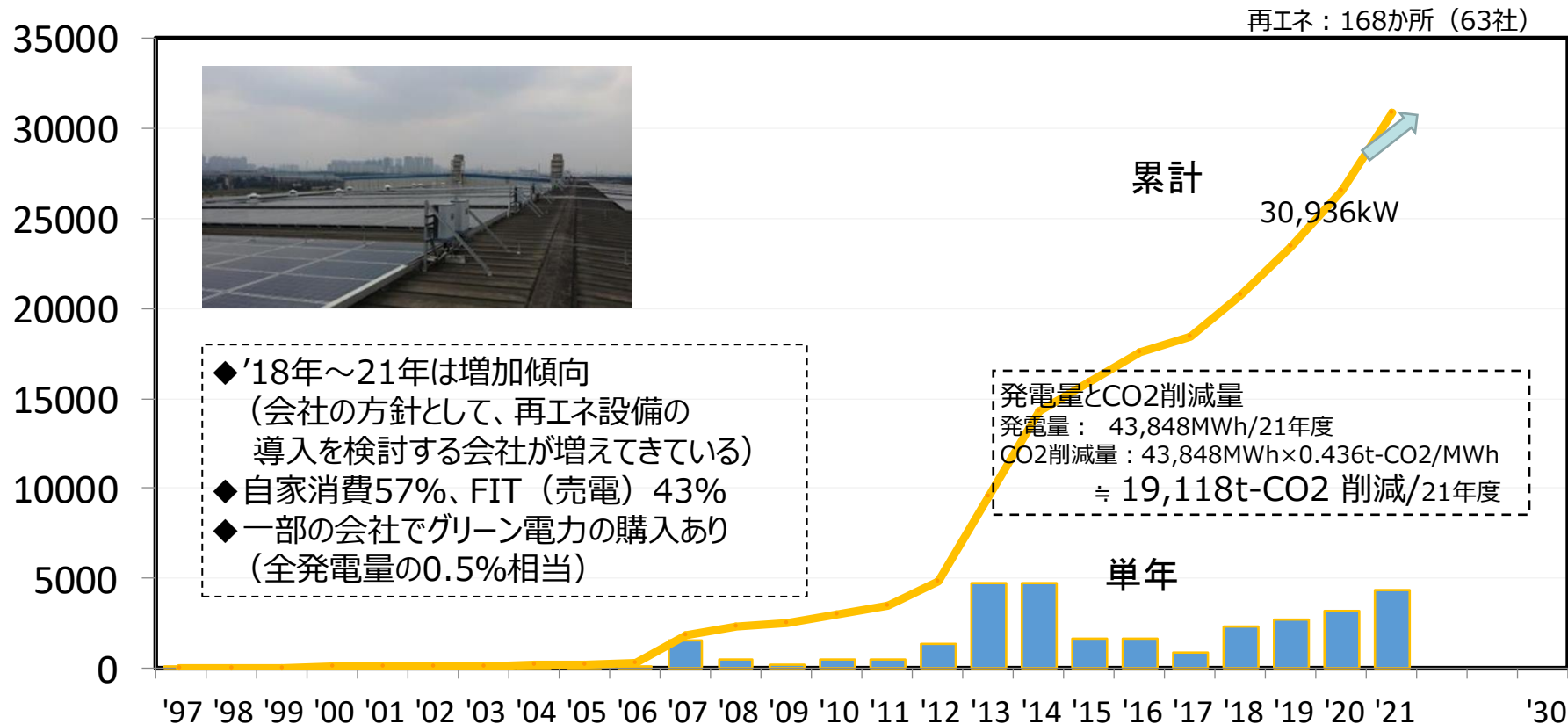
- ・ 部工会ホームページに掲載（毎年更新）
- ※ 今年度より事例情報の共有範囲を会員企業以外（取引先）へ拡大

'13 年度から太陽光を中心に再生可能エネルギー大幅増加

会員各社がカーボンニュートラル推進に向け、着実に再エネを推進中。

建屋新設時の導入やグリーン電力購入も視野に入れながら拡大を検討中。

発電容量 (kW)

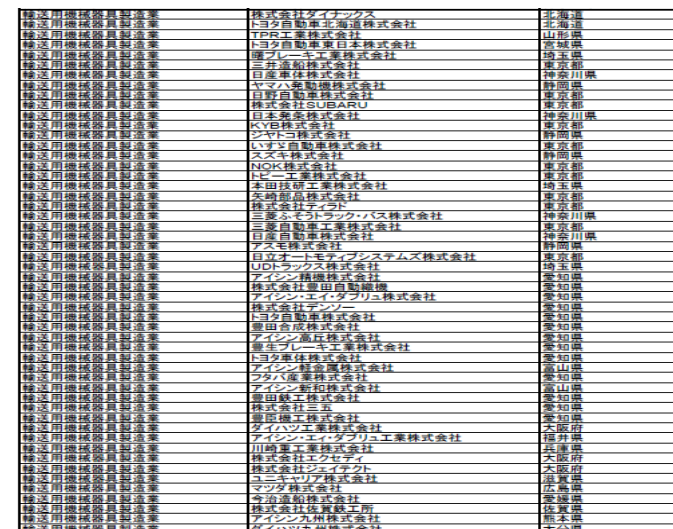


年度

テーマ名	敷地外太陽光発電所の設置による再エネ導入（オフサイトPPA）
概要	中部電力ミライズ(株)とオフサイト PPA サービス実施に向けた協定を締結、長野県に専用の太陽光発電所を設置し、発電した電力を本社・本社工場で使用する
取組み内容	<概要> 中部電力ミライズ(株)とオフサイトPPAサービス実施に向けた協定を締結、長野県内に当社専用の太陽光発電所を設置・運営し、発電した電力を当社の本社・本社工場に供給する（2022年12月運転開始） <事業スキーム> パネル出力 1,232kW 想定発電量 1,300,000kWh/年 ・ 工ネ種類：電気 ・ CO2削減効果： 600 t -CO2/年 ・ 再エネ電源の新規開発・活用による追加性のある再エネ導入

対象範囲 **特定荷主会社** 資源エネルギー庁HPより

特定荷主会社 資源エネルギー庁HPより



- ## 削減活動事例

●通勤FCバスとグループ会社の水素ステーション



・グループ企業
4社導入
・CO2排出量
を年間約40
トン削減

概要

自動車は80%以上が部品調達で構成されており、部品メーカー等の技術開発により、燃費向上(CO₂削減)に貢献

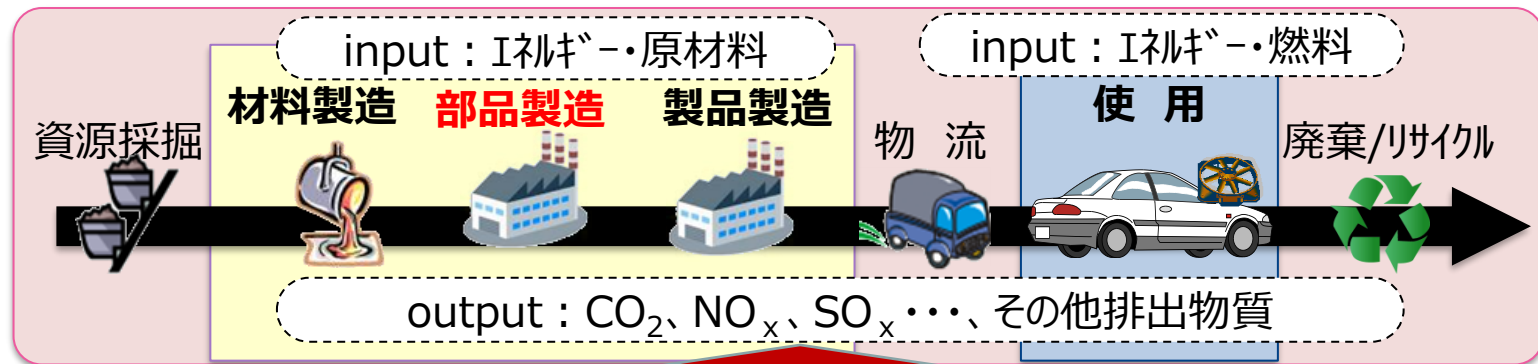
取り組み状況

- ① 部品の軽量化
(部品・材料の削減・置換、部品点数削減、モジュール化)
- ② 高機能化 (省電力・エンジン効率・伝達効率の向上)
- ③ 運転支援 (ITS、カーナビ) 等

部工会での活動

材料構成から、「材料・部品/製品製造段階」、「使用段階」のLCI値(環境負荷量)を簡易的に算出するツールを開発し、会員各社に普及促進を実施。

⇒会員各社がLCAを効率的に行い、削減貢献度評価や環境製品設計に繋げる



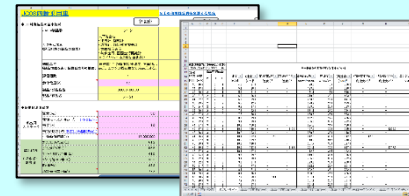
環境負荷算出ツール

環境負荷量算出

製造段階



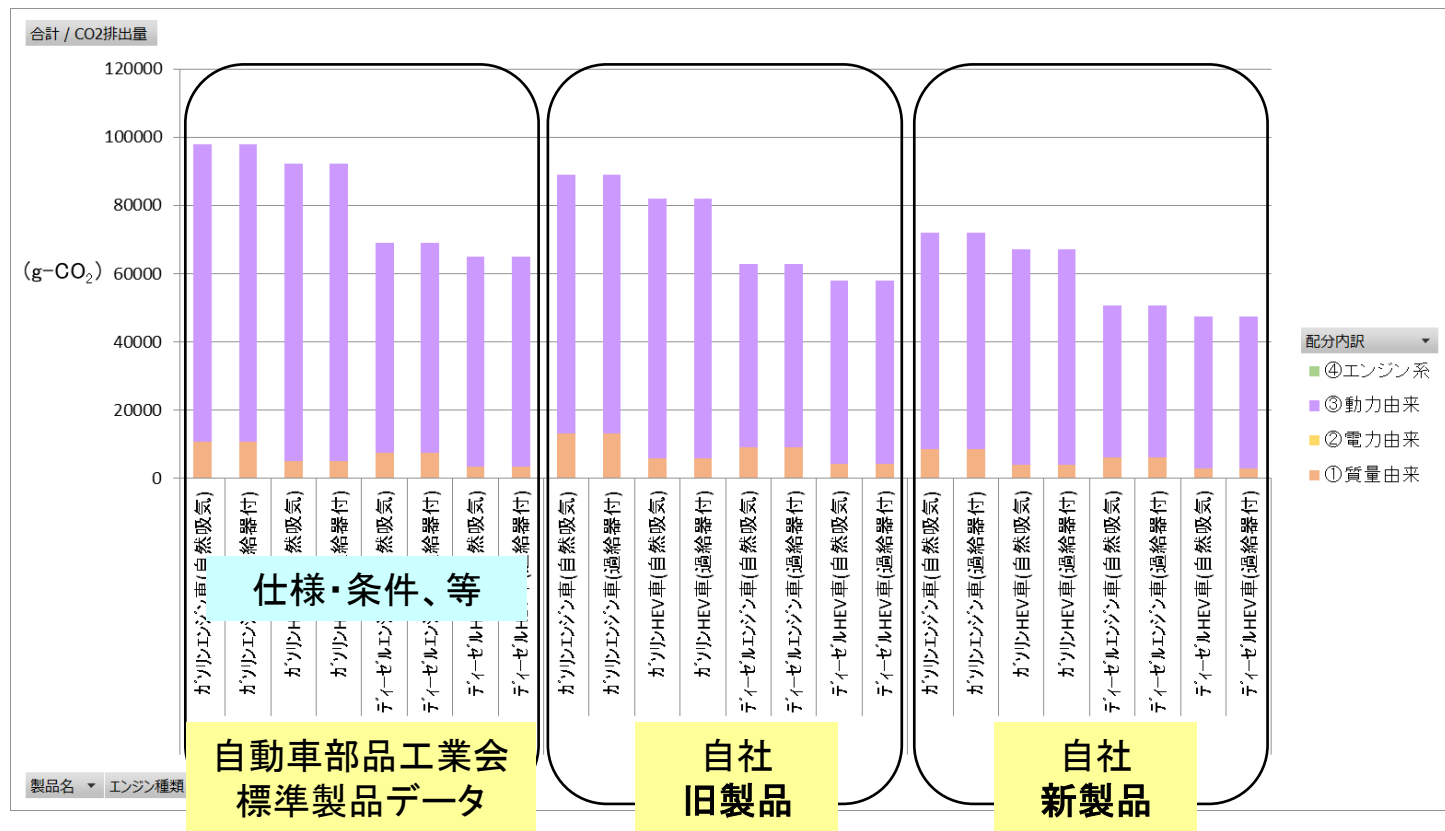
使用段階



(1) 環境負荷算出ツールの活用

会員各社は算出ツールを用いて環境負荷量を簡便に算出することができる。
約70種の標準製品データ（業界平均値）との比較や自社旧製品との比較が可能。

環境負荷算出ツールの実際出力画面（使用段階） ヘッドライトの場合



※四輪中型車

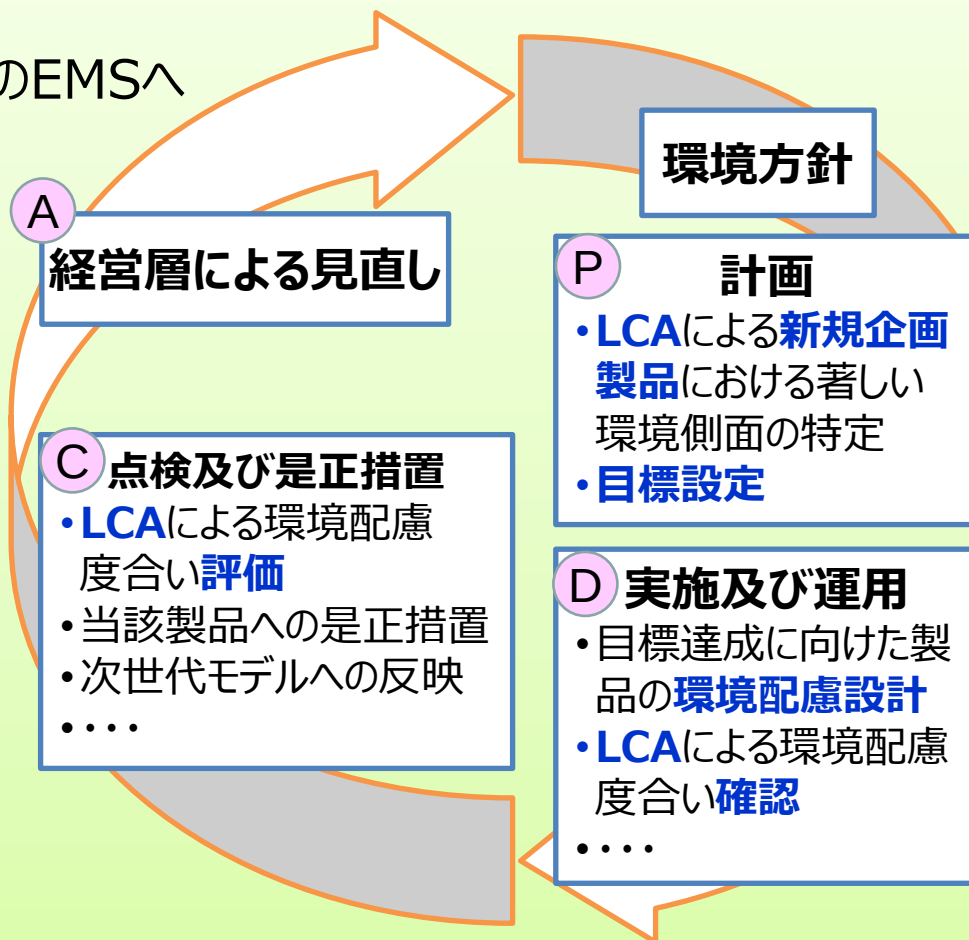
環境負荷量を見える化し、PDCA改善ループに活用する。
会員企業内のモチベーションを高め、継続的な環境改善に貢献する。

ISO14001やエコアクション21などのEMSへ
製品そのものの環境側面を設定

※EMS: 環境マネジメントシステム

環境配慮設計の効果を
LCAを用いて評価
(LCI算出ツールの使用)

継続的な改善の実施
(CNに資する改善につなげる)



	低炭素製品・サービス等	削減実績（2021年度）	削減見込量（2030年度）
1	エネルギーソリューション 製品（SOFC、GHP他）* 発電効率の高いSOFC（固体酸化物形燃料電池）を採用した「家庭用燃料電池コージェネレーションシステム」（都市ガスから電気と熱（お湯）をつくる）	682,300（t-CO2/年）	現状未算出
2	燃料電池自動車関連部品の生産、開発 ・ 部品の小型化、構造変更による軽量化や高性能製品の開発による、走行段階での燃費向上 ・ 植物由来材料（ケナフ）の使用による天然資源を使用した低炭素材料の採用 ・ 燃料電池、電動車部品の開発による走行段階でのCO2低減	3,736（t-CO2/年）	現状未算出
3	リサイクル樹脂を活用したグロメットカバー ・ 梱包用のカバーとしてワンウェイで廃棄されていたカバー類で同一の素材のものを回収しリペレット後に再度原材料として利用、グロメットカバーを作成。これによりバージン材の利用比率を削減し、原材料に関わるCO2を低減した。 ・ 2030年度の見込み量は生産数に比例して効果が増減する。	857（t-CO2/年）	857（t-CO2/年）

* SOFC：家庭用燃料電池、GHP：ガスヒートポンプエアコン

(1) 省エネ事例マップの編集

日本の省エネ事例マップをベースに効果・投資の大小で再編・英訳し会員企業に展開
⇒会員企業が各社の実情に合わせ海外法人への技術展開に活用。関心が高まってきている

Best practices for energy saving (抜粋) 省エネ事例集 (英語版)

<Concept>

Best practice that could bring in the effects for prevention of global warming and monetary saving with less energy usage by electricity saving and material saving are selected.

*1 : Effect level		Small	Middle	Large
Power reduction effect (kWh/year)		0-2,000	2,000-20,000	over 20,000
CO ₂ reduction effect (t-CO ₂ /year)		0-1	1-10	over 10
*2 : Investment level	None	Small	Middle	Large
Cost (thousand yen)	0	less than 100	100 - 1,000	over 1,000

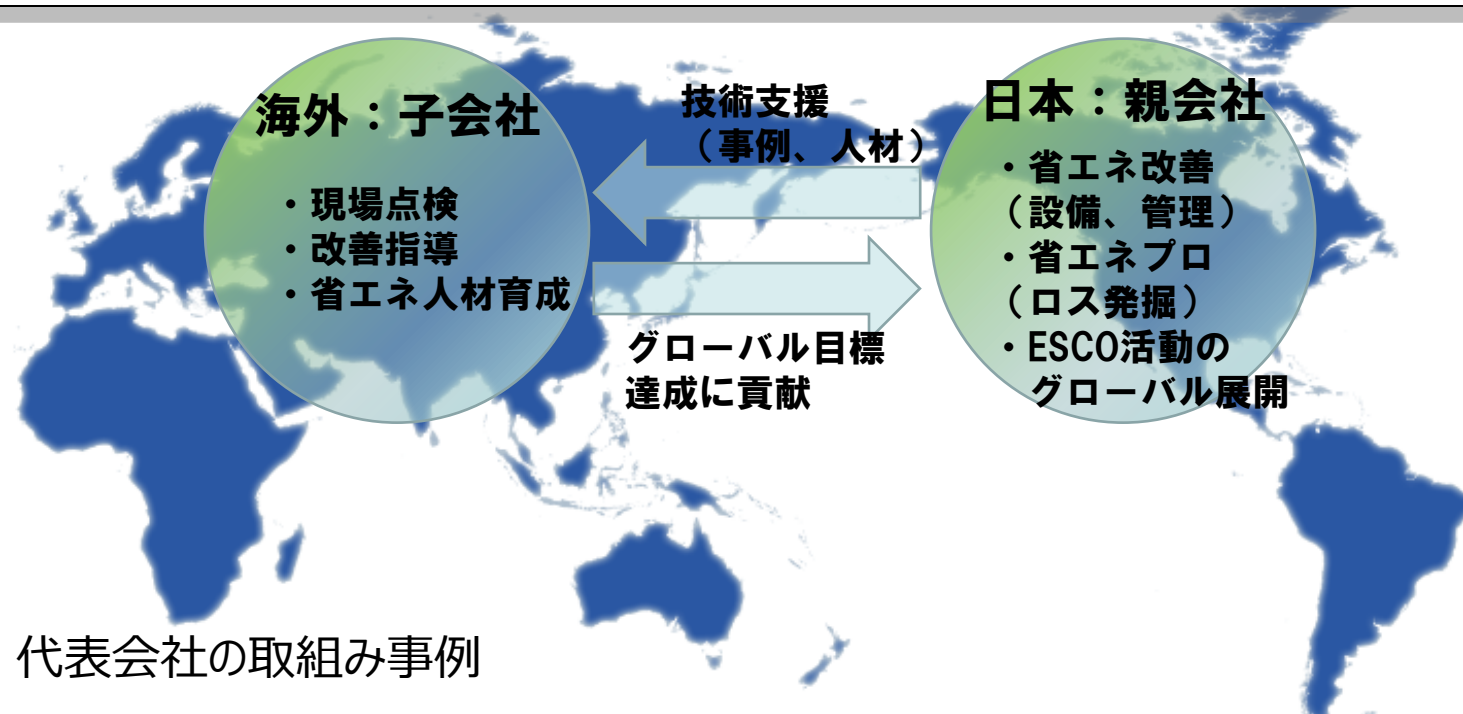
No.	Year of publicatio	Effect level*1	Title	Investment level*2
45	2015	Large	Preheating combustion air by reusing exhaust heat from heat treat furnace	Large
46	2015	Middle	Use of inverter motors for the AHU (air handling unit)	Large
47	2015	Large	Recovery and efficient use of condensate from the boiler	Middle
48	2015	Large	Using inverter motor for air compressor	Large
49	2015	Middle	Turning power off for multiple machining equipment	Small
50	2015	Large	Change from continuous to intermittent air stream for high frequency quenching machines	Middle
51	2015	Large	Reducing the temperature of the hot washing tank	None
52	2015	Small	Streamlining the production line	None
			Automatic on/off control	Small

(2) 海外企業への省エネ技術移転

23/32

- ・グローバル温暖化防止目標の達成
- ・建屋新增築時、設備更新時での環境施策導入
- ・省エネルギー、省コストの推進

省エネ技術の導入支援



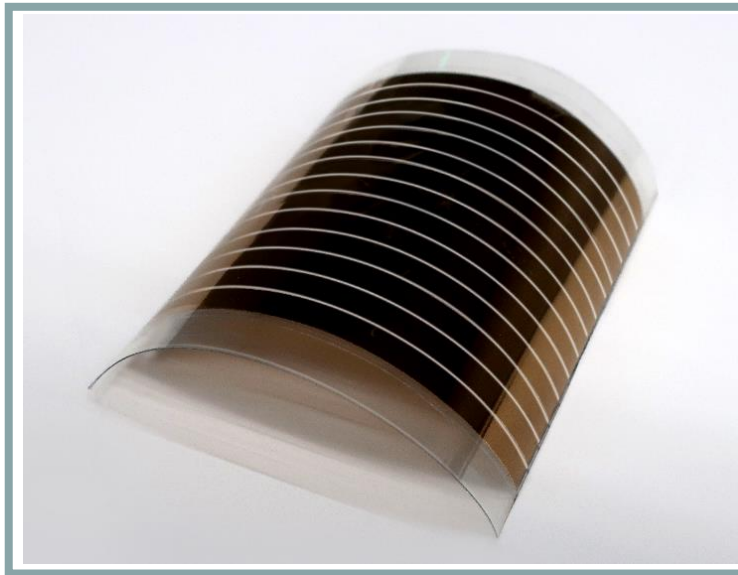
代表会社の取組み事例

海外での展開事例	削減実績 (2021年度)	削減見込量 (2030年度)
再生エネルギー(太陽光発電) の導入、 オンサイト、オフサイト、証書購入	25,985 (t-CO2/年)	593,630 (t-CO2/年)
省エネ照明設備の導入	1,205 (t-CO2/年)	1,205 (t-CO2/年)
空調・コンプレッサー更新	1,017 (t-CO2/年)	1,017 (t-CO2/年)

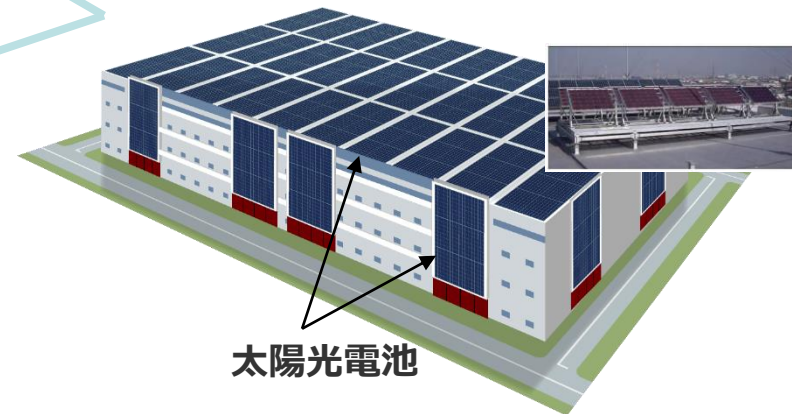
	革新的技術・サービス	内 容	削減見込量
1	CO2排出量半減 生産ライン	原料にこれまでと異なる油脂を使うことによる低温成形や、工程の順序を入れ替えることによる焼き付け処理廃止等により実現	250 (t -CO2/年)
2	ペロブスカイト 太陽電池 *1	・シリコン並みの変換効率が目指せる低環境負荷(製造時エネルギー小)で軽量の太陽電池 ・シート状に成形すれば曲げることも可能。耐荷重の低い屋根や壁への設置が可能	現状算出不可
3	CO2固定化 *2	・産業副産物(廃コン・スラグ)から抽出したCaに、工場排ガス等のCO2をCaCO3として固定化する技術。 ・生成したCaCO3をコンクリート等で利用することでカーボンリサイクルを実現。 ・Caの抽出にアミノ酸水溶液を使用することが独自技術。単位溶液量当たりのCa抽出量他方式よりも多い。	現状算出不可

* 1 軽量太陽光発電

ペロブスカイト太陽光発電



様々な既存建屋に対して設置が可能



<開発目標>

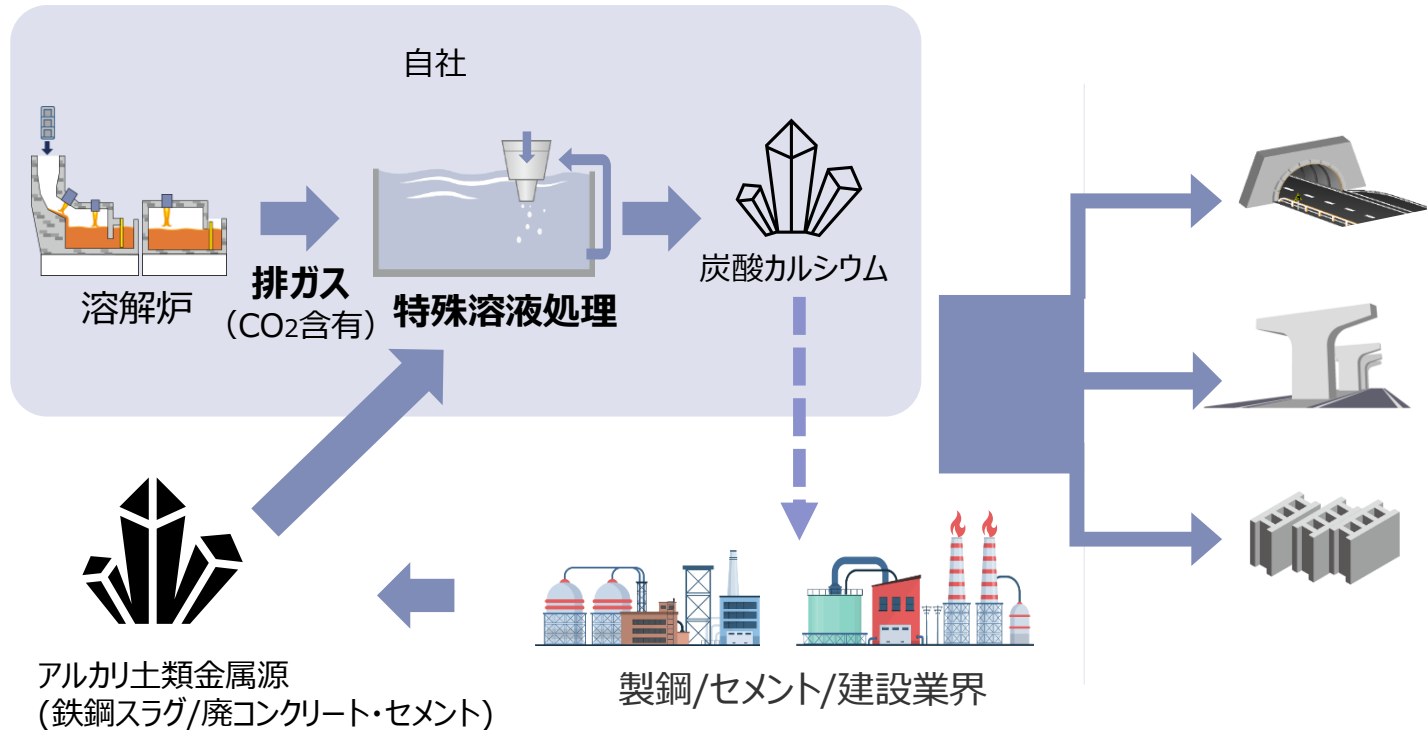
- ・ 変換効率：20%以上（30cm x 30cm）
- ・ 質量：1/5（一般的な太陽電池比）

ペロブスカイト太陽光発電の特徴

- ・ 鉛ヨウ素の材料を用いたペロブスカイト半導体を使った太陽電池 20%はシリコンと同等
- ・ シリコンパネルに比べ、**大幅に軽量**で曲面にも対応できるため、**設置場所が大幅拡大**(服)
- ・ **コストが安価**で、製造時のエネルギーが小さい ・ 耐久性は10年まで実証。課題継続対応

*2 CO₂固定化

『工場排ガスと廃熱』を使って産業副産物を再資源化



CO₂活用量

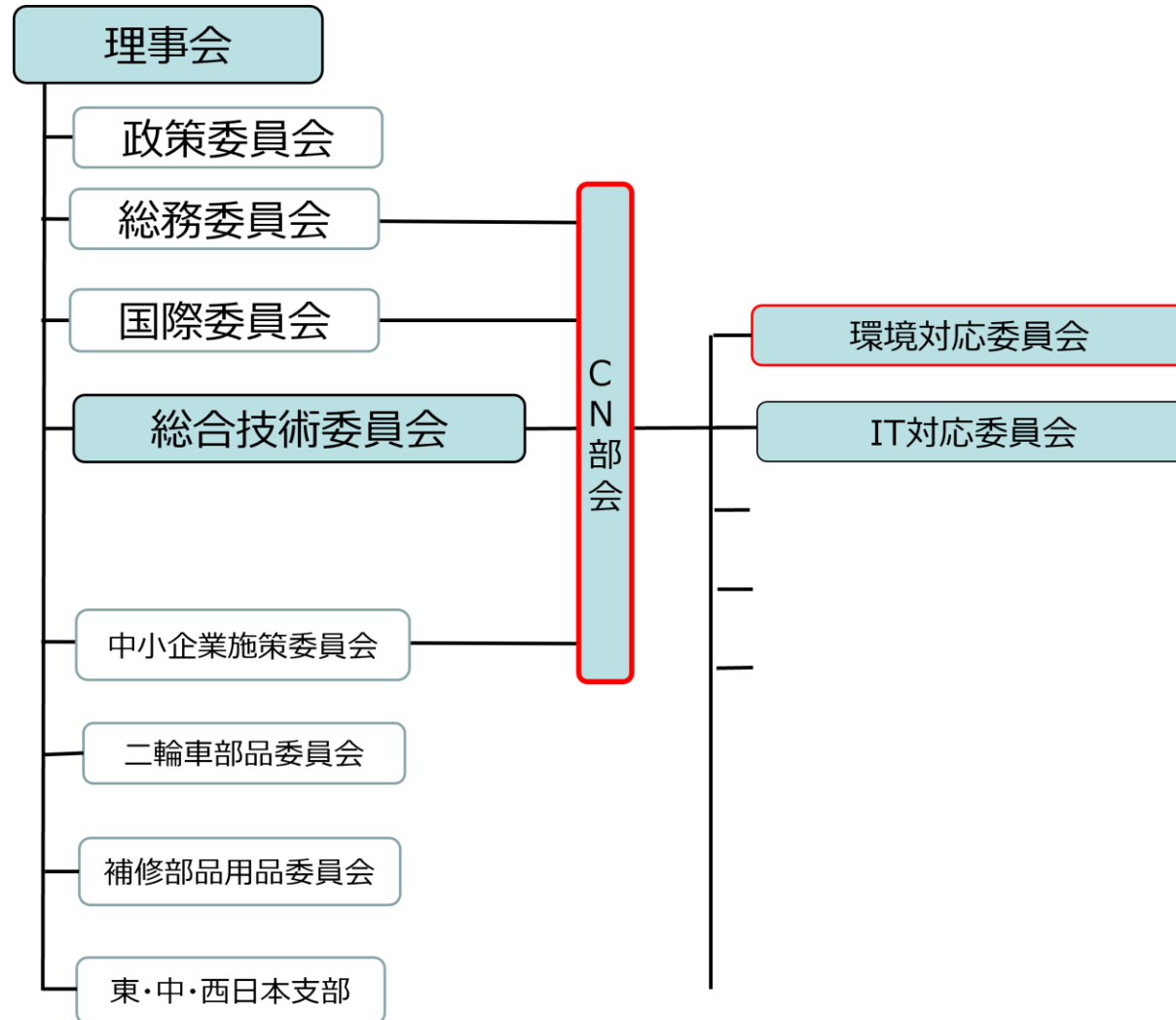
2023年	2025年	2026年以降
ライン実証開始 2t-CO ₂ /年	工場実証開始 200t-CO ₂ /年	大型化 市場導入

CO₂固定化 紹介動画

<https://www.youtube.com/watch?v=6isZXMMEAbQ>

7. その他の取組

(1) カーボンニュートラル推進体制



(2) CO2削減活動アピールと教育について

会員企業では、

- ・環境目標達成状況をはじめ、具体的な取り組み事例をホームページや冊子等に掲載し、情報発信を積極的に推進
- ・環境月間、省エネ月間での家庭・従業員向けの啓発・教育



JAPIA環境情報誌の発行(HPで公開)

https://www.japia.or.jp/work/kankyoku/kankyoku_jouhoushi/

オンラインセミナーの開催

CN関連セミナー情報一覧

2023/01/06	会員限定	CN	【CNセミナー】ウェビナー「カーボンニュートラル促進による企業競争力向上」ご案内
2022/12/01	会員限定	CN	受付終了／【CNセミナー】「カーボンニュートラル実現に向けてサプライヤが実施すべきこととは？」（会員限定）
2022/11/09	会員限定	CN	受付終了／【CNセミナー】やればすぐに効果が出る省エネ5事例を徹底解説！（会員限定）
2022/10/27	会員限定	CN	【CNセミナー】22年度CNアンケート調査、目標・アクションプラン集約結果説明会
2022/09/16	会員限定	CN	【CNセミナー】グリーン社会の実現に向けた競争政策上の論点・動向
2022/07/20	会員限定	国際部 CN	【CNセミナー】【会員企業限定】ウェビナー「カーボンニュートラルを取り巻く自動車産業」ご案内
2022/04/22	お知らせ	CN	第9次環境自主行動計画（改定版）を公開しました
2022/03/31	会員限定	CN	受付終了／録画配信「カーボンニュートラル実現に向けてサプライヤが実施すべきこととは？～設計・開発領域を対象に、カーボンニュートラル実現のための備えとしてシステム化すべきことを考察する～」
2022/02/17	会員限定	CN	3/10(木)【CNセミナー】講演会および省エネ事例勉強会
2022/02/07	会員限定	募集中 CN	『カーボンニュートラルに向け加速する二輪車業界の電動化と提携』 開催のご案内
2022/01/21	会員限定	CN	【CNセミナー】CN推進にあたっての基礎知識
2021/08/16	募集中	CN	産業競争力強化法等の一部を改正する等の法律に関する説明会のご案内 ～第1回：CN（カーボンニュートラル）に向けた投資促進税制について～
2021/08/05	会員限定	募集中 CN	カーボンニュートラルに関するアンケート調査結果説明会
2021/06/07	会員限定	CN 5団体	カーボンニュートラル（CN）セミナー開催のご案内

●講演会 年間13回 開催

●参加者数 年間約 3,600人

(3) 中小企業向けコンテンツ整備

CN推進にあたっての基礎知識 (会員企業向け)

一般社団法人 日本自動車部品工業会
中小企業施策委員会/CN対応部会

21年11月時点 (今後継続してブラッシュアップ)

JAPIA

©Japan Auto Parts Industries Association (JAPIA) All Rights Reserved.

1. 基礎知識

(3) CO2を減らす対象(範囲)は？

A. 自社の排出だけでなく、サプライチェーン全体(原料・部品調達から製造、物流、販売、廃棄に至る事業活動の影響範囲全体)の排出量が対象です
⇒Scope1,2,3の考え方を押さえておきましょう！

<減らす対象> **Scope1排出量 + Scope2排出量 + Scope3排出量(15カテゴリ)**

Scope1：自社の燃料使用、工業プロセスでの排出（直接排出）

(出所：環境省ホームページ)

Scope2：他社で生産されたエネルギーの使用（主に電力）に伴う排出

Scope3：Scope1、Scope2以外(自社の活動に関連する他社の排出)



今回は、自社(Scope1,2)に特化して説明 ⇒ できることから即時行動に移して頂きたい

JAPIA

©Japan Auto Parts Industries Association (JAPIA) All Rights Reserved.

5/17

(4) 「これで実践CN活動リスト」

説明会やホームページでの周知を予定

全体イメージ

JAPIA支援活動

⑩ CNの必要性の理解
導入セミナー開催

① CN活動組織
社内体制整備紹介

② CN活動企画
アクションプラン作成

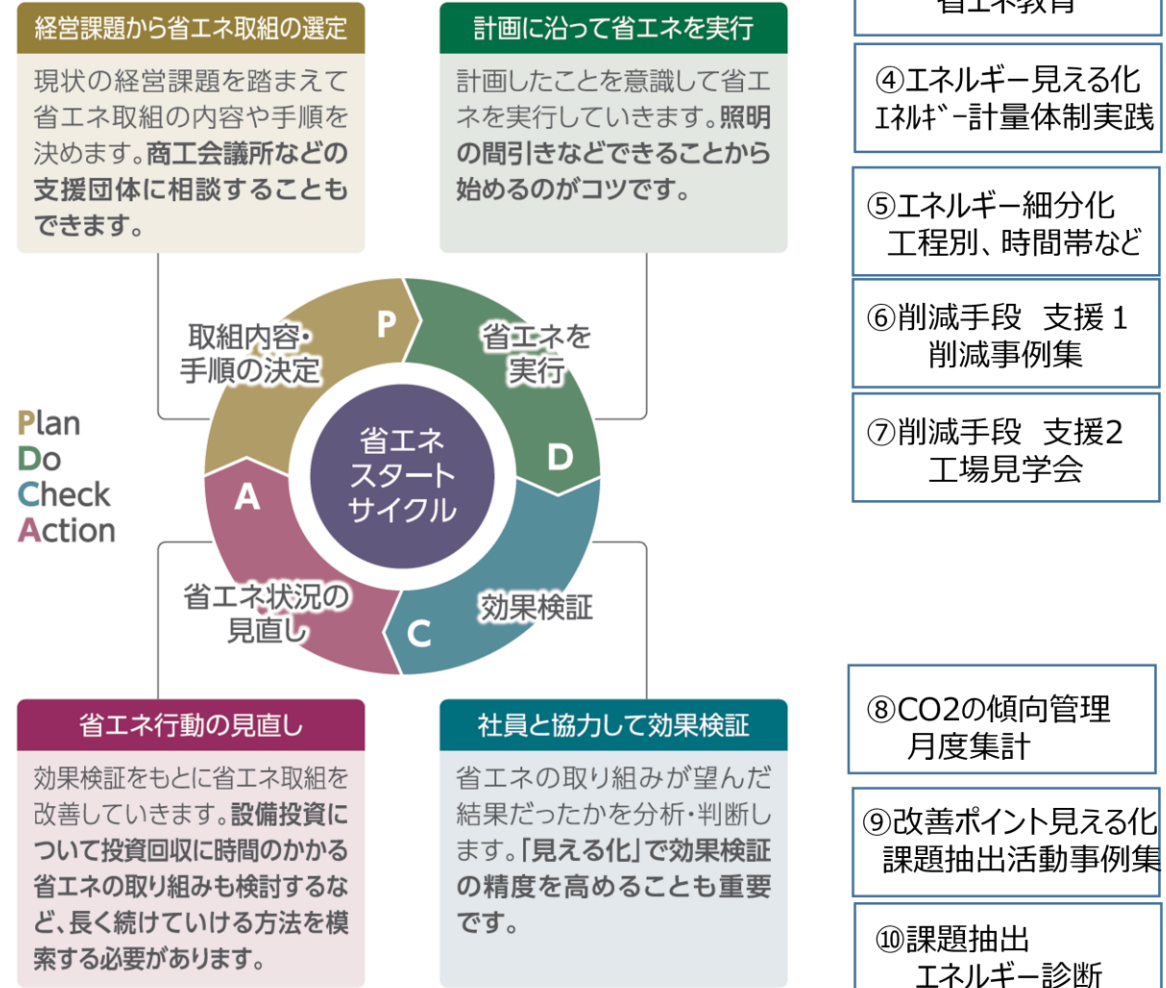
次年度
アクション
プラン策定

⑪ いバルアップ 項目抽出
自己診断シート

⑫ CN補助金計画支援
補助金制度紹介

⑬ 中期プラン支援
事例紹介

計画・実行・検証・見直しのサイクルが大切!



以上、ご清聴ありがとうございました